

# 第12回日本プロオーケストラファンクラブ協議会総会 札幌総会議事録

## 札幌総会議事録目次

開会宣言	-----	司 会（定政みち子札幌くらぶ事務局次長）
開会あいさつ	-----	J O F C会長 上田 文雄（札幌くらぶ会長）
幹事会報告・議案審議	-----	J O F C幹事長 西川 吉武（札幌くらぶ副会長）
		議案第1 J O F C役員改選について
		議案第2 次年度総会開催地について
		議案第3 都響倶楽部交流会開催について
分科会（分科会各テーブル協議まとめ発表）		
Aテーブル		セミナーやコンサート（企画から実施まで、費用）
Bテーブル		会報誌（記事内容・会員や楽員の寄稿・費用）
Cテーブル		招待事業（若年層のファン開拓、協賛金・企業との連携）
Dテーブル		交流会や親睦会（楽員や会員との交流・呼びかけ・参加状況）
Eテーブル		会員募集や宣伝活動（募集方法、ちらし作成・配布）
Fテーブル		楽団支援（支援の種類・方法、寄付金）
閉会宣言とご案内	-----	司会

## 開会宣言

○司会（定政みち子札幌くらぶ事務局次長） 先日の大地震では、皆さんに大変、御心配をおかけしましたが、今日こうして無事に皆さんをお迎えすることができて、私たち一同、本当に嬉しく思っております。来てくださいます、本当にありがとうございます。

それでは、始めさせていただきます。

ただいまから「第12回日本プロオーケストラファンクラブ協議会（J O F C）総会札幌総会」を開会いたします。

初めに、J O F C上田文雄会長より御挨拶をいただきます。よろしく願いいたします。



## 開会あいさつ

○上田文雄（J O F C会長） 皆さんこんにちは。

J O F C会長を務めさせていただいております上田でございます。札幌くらぶの会長でもございまして、札幌へようこそおいでいただきました。心から歓迎を申し上げたいと思います、ありがとうございます。

私たちクラシック音楽をこよなく愛し、そしてとりわけ地元のこうした活動があるという幸せを感じながら、そのオーケストラが自分たちの住民、身近にいる人たちと一緒に音楽を奏で、それを堪能する、その喜びを共有することに皆様方が本当に一生懸命に努



力をされ、そして1年に1回、こうしてJ O F C総会ということでお集まりいただいて、意見交換をする。もっと地元のオーケストラがすてきなオーケストラになるように、そしてそれを聴き楽しむ人たちが、仲間がもっともっと増えるようにどんな工夫があったらいいのかなということ学び合う、さらには今回は札幌交響楽団を皆様方に堪能いただくというように、よその町のオーケストラ、その活躍のこともみんなで観賞して応援し合う、そんな機会になればということで、この総会が設けられているところでございます。

もう12回目ということでありまして。丸12年がたちました。本当に多くの皆様方が地元で活躍されていること、そしてこのJ O F Cに結集をしていただいて、欠かさず参加をしていただいておりますことに、心からの敬意を表したいと、このようなふうに思います。

なぜ、私たちはこういう活動するのかということについて思うところが皆さんあるというふうに思われます。ぜひ、この意見交換の中でいろいろな悩みを、そして工夫をみんなで話し合う、盛り上がる、そして元気をもってまたこれからの1年をオーケストラとともに私たちの町を豊かにする、私たちの生活を豊かにする、その中につながる、そんな材料を、この総会を機にお持ち帰りいただくことをこれから期待申し上げたいというふうに思います。札幌の演奏、今日はいかがでしたでしょうか。(拍手)

ありがとうございます。私の札幌でございます。皆様方の自分のオーケストラを持つてという誇りに満ちた皆様方でございます。私の札幌、私の仙フィ、私の広響、みんな言える、そういう贅沢な生活を私をしているところでございます。3.11をイメージしたレクイエムが最初に演奏されました。本当に、災害というのはどうにもならないかということを生々しく私ども感じとることができたのではないかと。特に、この札幌では、北海道では、この9月6日に大きな地震がございました。そのことを観衆、聴衆の皆様方とともに感じ取っていただけたのではないかなと、このように思います。

ドブュッシー、そしてフォーレのレクイエム、悲しい曲が続きましたけれども、悲しみを味わいながら、これから私たちはまた出発する、そんな元気をみんなで共有できればうれしいと、このように思います。

札幌くらの会長でございますが、この総会のためにさまざまな苦労を重ねてきたメンバーの皆様方、特に村岡さん、頑張ってくださいました。本当に感謝をしながら、この開会、成功裏に進み、そして喜びを持ち帰っていただける、そのように思うことを心から祈念いたしまして、どうかよろしく願い申し上げまして御挨拶といたします。

ありがとうございました。どうか、よろしく願いいたします。(拍手)

○司会(定政みち子札幌くらぶ事務局次長) 上田会長、ありがとうございました。

続きまして、幹事会報告です。

J O F Cの西川吉武幹事長、よろしく願いいたします。

#### 幹事会報告・議案審議

○西川吉武(J O F C幹事長) 皆さんこんばんは。札幌へようこそいらっしゃいまし



た。

J O F Cの幹事長をやっております西川と申します。札幌の副会長兼事務局長を兼任しております。

先ほど午前中に幹事会が開催されまして、その中で何点かのことを話し合うことができました。皆さんには、議案書の5ページを見ていただきます。

まず、一つ目の議案、J O F Cの役員改選についてというところが記載されていると思いますが、実を申し上げますと会長の上田、それから幹事長の西川、事務局長の武藤、合計12年、このままの継続で続けております。これらも、やはり新しい風を入れないとまずなというふうに思っておりますが、この役員改選について4年に一度の役員改選になるわけなのですけれども、今回は全員留任ということで幹事会でお話ししました。

このことについて、一つ付け加えますとJ O F Cの役員体制、将来のビジョン、J O F Cも12年たった、ではどういうJ O F Cのあり方がいだろうかということを中心に議論しましょうということで、実は、その議案3に出てきます2019年3月17日、半年後になりますが、ここで都響倶楽部さんの交流会を開催することになりました。東京です。ここで、何人かの方がJ O F Cのメンバーが集いますので、ここで少し将来のビジョンやら役員体制のことやら、この辺をしっかりと話し合いましょうということで、現役員については全員留任ということで結論出させていただきました。

二つ目の議案に入ります。次回の総会開催時、これも幹事会で毎回決めているところですが、2019年11月23日、仙台で開催することを仙台フィルハーモニークラブのほうで了解いただきましたので、来年度は11月23日、仙台で開催することがまりました。

その次の翌年度2020年、ちょうど東京オリンピックの年になりますが、山響ファンクラブ、山形交響楽団を聴いて、そして交流会をしましょうというところで案として浮かび上がってまいりました。

1年間検討していただいて、その上で、来年の仙台のときには山響ファンクラブが開催を決定できると思いますので、それまでお待ちいただければということで、案として山響ファンクラブに了解をいただきました。

続いて、議案3です。先ほども申し上げましたように、都響さんのほうで都響倶楽部という応援団をつくっております。やはり、この中でも交流会を開きたいということで、来年3月17日、ちょうどJ O F Cの中間年に当たります、中間月になるのですが、インパル、ブルックの8番を聴きながら、そして交流会はゆっくり東京の風を味わいながら一杯やりましょうかという、そういう会を開いていただけるということで、都響倶楽部さんのほうからも申し出がありまして、この日、開催することにしました。ぜひ皆さん、こぞって参加いただければということで、おおむね今回の参加者は全国から30名以上になるんだなというふうに現在のところ想定しております。

それから、議案にはなかったのですが、群馬交響楽団の応援団をやっております群馬ファンズというのがございます。その代表である小野さんから電話がありまして、札幌、も

しくは札幌くらぶに被害があったら大変だったねということで、この震災応援というところで札幌、あるいは被災を受けた皆様方に札幌の音楽を届けたいかどうかと、フルオーケストラでなくてもいいから、ぜひ被災地でコンサートができればいいね、そういうカンパをこのJOF Cがしたらどうかという提案がありました。札幌くらぶとしても、これを快く受け入れて、今回、この場にいらっしゃる方が多少の寄付はいいよということがあるならば、ぜひ御協力いただきたいのと、あわせて各団体持ち帰って私ども札幌くらぶに多少の義援金を送っていただけると、これは望外の喜びだなというふうに思っております。これらのある一定時期まで少し集めまして、札幌さんにもし可能であれば、被災地のコンサートができませんかという資金に使っていただければということで、札幌さんに寄付をしたい。場合によっては、壊れた楽器などもあるかもしれません、そんな見てもらうチャンスができるのだったら、それもいいでしょう。こういうふうな使い道のためにJOF C挙げて応援いただけるということを、この幹事会の中で決めました。

以上、この4点について、幹事会の協議事項として皆さんに御報告を申し上げ、皆さんの御確認を拍手でもって御確認いただければありがたいと思います。(拍手)

ありがとうございます。この議案4件については、以上のとおり、来年度以降もJOF Cを続けていくこととなりますので、精一杯頑張りたいと思います。どうも、ありがとうございました。(拍手)

○司会(定政みち子札幌くらぶ事務局次長) 西川幹事長ありがとうございました。

今、皆さんから拍手で承認をいただきましたので、改めて申し上げますが四つの点よろしく願いいたします。

それでは、分科会のほうに移りたいと思います。

質問、何かございますか。よろしいですか。

それでは、分科会にたっぷり時間をいただきましたので、よろしく願いします。

今年の分科会は六つのテーマに分けて行います。

6ページ、ごらんになってください。ここに分科会のテーマ別グループ氏名が書かれております。実際には、紙面に変更がありますけれども、テーマは変わりありません。

各団体のファン拡大だとか、大変、拡大のためにいろいろな活動をしてこられていると思います。今年は、その活動の一つ一つに焦点を当てて、その活動の方法や仕組みを交流し合うことで自分たちの活動に何か生かすことができるのではないかと、ヒントになるものがあるのではないかとというふうに考えます。

それで、それぞれのテーマ別にお話し合いをしていただきたいというふうに考えております。

この、議案書の中に各活動、団体の活動報告書、それと個別の質問などの資料も入っておりますので参考になさってください。

各グループの司会、記録は札幌くらぶで担当いたします。まとめの発表は、あらかじめこちらで決めさせていただきました。時間になりましたら、各グループから代表の方、その方で2分ぐらいにまとめてお話ししていただきたいと思いますと思っております。

今、大変、前半がスムーズに終わりましたので、5時15分、たっぷり1時間ぐらいありますので、こちらでストップというまで、それぞれのテーマについて話し合ってくださいと思います。



それでは、各テーブルの司会の皆さん、よろしくお願いいたします。

(分科会)

- Aテーブル セミナーやコンサート（企画から実施まで、費用）
- Bテーブル 会報誌（記事内容・会員や楽員の寄稿・費用）
- Cテーブル 招待事業（若年層のファン開拓、協賛金・企業との連携）
- Dテーブル 交流会や親睦会（楽員や会員との交流・呼びかけ・参加状況）
- Eテーブル 会員募集や宣伝活動（募集方法、ちらし作成・配布）
- Fテーブル 楽団支援（支援の種類・方法、寄付金）



Aグループ



Bグループ



Cグループ



Dグループ



Eグループ



Fグループ

## 分科会（分科会各テーブル協議まとめ発表）

○司会（定政みち子礼響くらぶ事務局次長） それでは、時間になりましたので各グループからのまとめの発表ということでお願いいたします。

グループで出された話題、参考になったことなど、また個人の感想でも構いません。どのようなことが話題になったのか、自分の団体に参考になるものがあったとか、個人の感想でもかまいませんので、よろしくをお願いいたします。

2分から、ちょっと時間がありますので3分ぐらいまでということで、その程度でお願いいたします。

中央のマイクでお願いします。では、まずAグループです。都響クラブ代表の篠原様、よろしくお願いいたします。

○篠原敏修（都響倶楽部代表） 都響くらぶ篠原です。Aグループはコンサート、それからセミナーということについて話し合いをしまして、まず各ファンクラブからこういうことをやっているという発表をいただきました。

この議案書の中に、その辺のところは16ページから、17、18、19、20、21まで、かなり詳しく皆さんレポートをされていますので、中身についてはこれを読んでいただくのが一番早いです。3部しかありませんので、そこは全部飛ばしまして、セミナーということでいけば、多分、二つ目的があって、一つは勉強をしよう、音楽について勉強しましょうという、そういう意味での比較的初心者というか、そういう人たちを対象にしたセミナーというのが一つ。

もう一つはプログラムを演奏曲とかプレイヤー、演奏者とか、そういうプログラムについて事前に勉強してコンサートをよりよく聴きましょうという、そういう方向が二つあるのかなと思っています。話を聞いてそういうふうに思いました。

皆さん、いろいろと工夫を凝らしてやっていらっしゃるわけです。コンサートについては、これは皆さんいろいろなことをやっていらっしゃるわけですが、本当に千差万別なわけけれども、結構、共通した悩みというか、後ろめたさというか、楽団員の方に来て演奏していただくわけなわけけれども、それに対して謝礼を当然出すと、楽団員プラス伴奏者の人があって、ピアノの調律があって、会場費があって、どうのこうのということになって、予算はこれしかありませんと。ですから、もうこれ以上出せませんということでお願いをしていると、結局、1人に渡っている金額というのは物すごく少なくなっていて、こんなのでやっていただいて申し訳ないなど、あるいは言い方によってはこんなものでやっていただくのはおかしいのではないかと、プレイヤーに対する冒涇とは言わないけれども、そんなのでやっていただいていいのかというような意見さえあるということもありました。ここはやはり、非常に難しいし問題かなというふうに思います。

都響のペースは、実は都響事務局が裏からサポートしているという、予算的にはサポートしてもらっているというところがありますけれども、これはもう本当、皆さんのありようによって本当に薄謝でやっていただいていると、全員が幾同に気が引けているという感じ、印象を持ちました。





そろそろ3分だと思います。一応、この辺のところで。(拍手)

○司会 (定政みち子 札響くらぶ事務局次長)      ありがとうございます。

ちょうど3分です。

では、Bグループ、群響ファンズ事務局長の石守様、よろしくお願いいたします。

○石守 晃 (群響ファンズ事務局長)      石守でございます。

なるべく早めにお話を申し上げたいと思いますが、今年の群馬はすごく暑くて、ごらんの体型で全身が脂肪でできているものですから、何度を通り越しても溶融状態になっていまして、ようやく固まってきたところでも頭が回らないものですから、うまくまとめられるかどか。



ここは広報誌ということでやっていたのですが、広報誌はモノクロのものとカラーのものがございました。カラーになったらわかりやすくなったという御意見もあったのですが、キーワードとしてはデザイン、ネット印刷、カラーということがキーワードになるかなと思います。デザインは自前でやっているところ、それから委託しているところ、いろいろあるのですが、デザインの善し悪しというもので決まると。

それから経費を安く抑えるためにネット印刷というのがあると、それからカラーだとわかりやすいということがありました。

ここに付帯しておじさんのわからない世界、デジタルの世界というのがございまして、これが50代を境にして認識が違わないか。それより上の世代は紙でないと嫌だと、それより下の世代はネットでないとだめだということで、差別化が図られつつあると。これを一緒にするためには、デジタルと紙の両方が必要だということになったわけですが、各界の実情によりまして、その線引きの年代は平均で50代ということになったわけですが、40代というところもありましたし、そのほか、余り多くはもうしません。

そのようなことで、ホームページ、それからフェイスブック、SNSというと私自信も全然わからない世界なのです。そういったものが、これから多様化されてくるのではないかと。それから会誌自体をデジタル化してホームページ上にアップするという計画のところもありました。これは、ただ印刷すれば紙として出てくるのですが、それがなかなか紙世代はわかっていただけないという、苦労話も出てまいりました。

私どもも紙世代でございますので、今後、心を改めまして進んでいただきたいと思えます。以上でございます。(拍手)

○司会 (定政みち子 札響くらぶ事務局次長)      ありがとうございます。

次に、Cグループ、名フィルファンクラブ代表幹事の山田様、よろしくお願いいたします。

○山田博子 (名フィル・ファンクラブ代表幹事)      皆様、どうもこんにちは。

私はCグループで招待事業について話し合いました。招待事業をやっているのは札幌、仙台、群馬、名古屋とありまして、群馬の方がグループに入ってらっしゃらなかったのが三つ、札幌、仙台、名古屋と事情を聞きました。

まず、仙台のほうは、定期演奏会、年3回です。ペアで3組6名、応募で招待をしてい

る、ファンクラブの資金でやってらっしゃるということ  
です。

それから会報誌で、二、三枚なのですけれども、ファン  
クラブの会員になった人にあげますよというので公募して、  
二、三枚を招待されているということです。

それから札幌くらぶは上田市長時代に小学6年生を全員  
K i t a r aに招待するという事は、これは実現して続け  
ておられます。

それから、今度は中学を将来、定期演奏会の会員になっ  
てくれそうな人たちの吹奏楽部に声をかけて、生徒を招待し  
ていらっしゃるそうです。

それで、これはスポンサーが札幌市職員福利厚生会というところがスポンサーになっ  
ていただいたので、チケット代の約70万円と、バスで行きも帰りも送迎するそうですが、  
バス代が40万円ということで、これがスポンサーが出していただいているということで  
ございます

それから、留学生の招待ということで、4年前に試験的に始めたということですが  
も、これはU25というチケットの割引があるそうですが、それを使って年3回から5回、  
だいたい1回で10名ほど、30名から50名を招待されているそうです。

それからもう一つ、バンスティンさんが始められたPMF、パシフィック・ミュージッ  
ク・フェスティバルというのがありまして、これは毎年、新しい演奏家を集めて、オーケ  
ストラを編成して、定期演奏会をするということでやられているそうです。それでアジア  
とかロシアとかの学生さんたちが参加されて、K i t a r aにコンサート紹介なんかする  
と、地元でコンサートホールがないところのお国の方は、やはり、いいなというふうな感  
想もいただいているそうです。

それから名フィル・ファンクラブのほうは、これは名フィルの事務局が定期演奏会のと  
きに中学生、高校生を積極的に事務局のほうに招待しています。それで、今、皆様に来て  
いただきましたコンサートホールが今、改修工事中で、あそこは1,800入るのですけれ  
ども、今、違うところで、市民会館というところでやっています、そこは2,250入る  
ものですから、今までのコンサートホールの定期会員が3階までで終わってしまうので、  
4階を学生、それからこれから定期会員になっていただきたいという人たちに招待状を出  
しています。そして、ファンクラブにも1年間で約300枚くらい招待状をいただきまし  
て、私がかの会社の役員だとか知人、虐待児の子たちも招待したことがあります。

それから、友人、知人、同級生たち。ファンクラブ、クラシック聞いたこともない人  
たちに、いいでしょう、いいでしょうと言って、招待して定期会員、賛助会員になっ  
てもらうように努力しております。

それから、私の場合、三井住友銀行さんと御縁ができましたので、ここに一般客をだ  
いたたい100名以上、招待して、私の企画で2年間で20回ぐらいいやりましたので、だ  
いたたい2,000人ぐらいい招待しています。

そんな感じですが、ありがとうございました。(拍手)

○司会(定政みち子札幌くらぶ事務局次長) ありがとうございます。続きまして、





Dグループ、仙台フィルハーモニークラブ事務局長の佐藤様、よろしくお願いします。

○佐藤佳世（仙台フィルハーモニークラブ事務局長） 皆さんこんにちは。仙台から参りました佐藤でございます。

私たちDグループは、交流会と親睦会のことについてお話ししました。先ほどと同じようにこっちを見れば皆さんのわかるのですけれども、私どものテーブルが仙台と山形と札幌の方の三つでしたので、その三つのやり方とかを伺いました。

私たち東北は、芋煮会という文化がありまして、ことしはみんなで芋煮会をやろうということで、団員さんとか、会員さんをお招き、みんなでやろうみたいな話をしているのですというお話をして、札幌のほうでは豊平館でサロンコンサートをやってらっしゃるというお話を聞きまして、一番最初、喫茶店で始めたので10何人から始めたのですが、今、年三、四回、その豊平館で定員80人いっぱい、必ず満員になるという、そのサロンコンサートってすばらしいですねというお話をして、3時間かかるそうなんですけれども、演奏と最後飲み会までやって3時間、それが必ず80人、年3回、4回いっぱいになるってすごいですねというお話をしましたら、ここがやっぱり違うんだなと思ったのですけれども、私たちやはり会員さんから3,000円もらっているので、会員さんにちゃんとそれを特典として与えなければならないということで、会員限定の催し物ということでやっているのですが、札幌さんはどうぞお友達を連れて来てくださいと言って、同じ2,000円で呼んで、そうすると、じゃあ私も入りたいわというお友達がどんどん増えていく、そういう考え方もあるんだなということで、私もちょっと目からウロコという感じでした。3,000円もらっているから会員限定で、会員さんだけに特典を与えるという考え方よりも、皆さんに広めてお友達連れてきてね、誰でもいいのよという考え方のほうが、もしかしたらもっと世界が広がるし、団員さんのためにもなることなのではないかなという感じで、私、大変、今日のお話には感動させられましたので。考えたことなかったですから、そういうこともすごく勉強になりました、ありがとうございました。（拍手）

○司会（定政みち子札幌くらぶ事務局次長） ありがとうございました。

では、続きましてEグループ、山響ファンクラブ代表幹事の佐藤様、よろしくお願いします。

○佐藤 彰（山響ファンクラブ代表幹事） 皆さんこんばんは、山響ファンクラブの佐藤と申します。

Eグループ、会員募集や宣伝活動ということで、先ほどのDグループさんが一つ答えを出してくださいました、ありがとうございます。ということで、何もしゃべらないのも、ちょっとあれですけれども、結構まとまらない話を最大公約数でお話ししますけれども、一応、ファンクラブとしては、楽団支援をやるために特典をととか、あと楽団員さんと会員さんは仲良くするととか、ある会員さん同士で仲良くしようとか、そういうニンジンをぶら下げて会員募集をやっているわけ



なのですが、実際それをアピールとか、アナウンスしてもなかなか人が集まらない、結局、会員の人たちの口コミというか、お誘いで入ってくださる方が、実情を考えれば、一応、我々が人間的に魅力を持って取り組んでいるというふうなことがあるのではないかなということなので、皆さんはぜひ人間性を磨くことををしていただければ、募集が下回らないのではないかと考えているところでございます。

あと、それから若い人がなかなか入らないということもありますが、一応、我々やりましょうと、枯れ草になりかけたのかなと、一応、有機農業で1回肥やしになって、花咲かないのかなというふうな、ちょっとそういうふうなにもあきらめみたいなムードも私はちょっと感じているところでした。

皆さん、それぞれ考え方もあるかと思いますが、その後の宴会のときに話をお伺いできればなと思います。どうもありがとうございました。(拍手)

○司会(定政みち子礼響くらぶ事務局次長) ありがとうございます。

続きまして、Fグループ、石川県立音楽堂学友会幹事の棚池様、よろしくお願いたします。

○棚池康信(石川県立音楽堂楽友会幹事) 棚池です。昨年は大変お世話になりましたありがとうございます。



最後の楽団支援ということで、いろいろ話し合いました。既にまとめていっぱい重なるような話が出てきましたが、一つ、大変興味深かったのは、興味深かったといっても金沢だけが興味深かったという結果なのですけれども、お金で全て済ませているグループ、全くお金がないので、体も動かない、体を頑張って動かしているグループに分かれました。

実は、後者が金沢で、そういう団体は話を聞いたところ金沢だけでした。山響は似たような環境にあるのですが、実は山響はちょっとお金にかかわる話題が出てきて、それが全くなかったのが金沢だけでございました。

例えば、礼響くらぶであれば年間50万円、楽譜の購入に寄付をしていると、名古屋はちょっと最後に1点だけしかお伺いできませんでしたが、年会費の中から毎年1人600円を楽団に寄付しているというようなお話がありましたし、仙台のお話はこういう支援クラブがまちの経済団体といろいろな形で連携しながら、具体的にはロータリークラブの中で年2回、仙台フィルを楽しむ会というのがつくられて、聴いていただいていると。

実は、そういう話が金沢には一切なくて、金沢は楽団支援でお話ししたのは、まさに楽団というか、ボランティアコンサート企画を我々がしまして、ほぼ楽団員の方にも無理を、全くお金を払う力がありませんので、完全無料で、ボランティアで施設のコンサートをしたり、年何回かやっておりますと、そういう報告をさせてもらいました。

これは、金沢としての話になるので、皆さん自分の美意識を持っておられるクラブは関係ない話だと思いますが、金沢は少し資金力を、代表を差し置いて何なのですが、今日、お話を聞いた経済団体とも関係をつくって、少し資金力をつけても、まあまあ老体にむち打って頑張る部分は別にそのまま継続してもかまわないのですが、もう少し資金力を持って、楽団支援ができたらいいなという感想を持ちました。これは、金沢にとってのまとめ

ですので、ほとんど意味のないことです。

それから、もう一つおもしろいなと思いましたのは、楽団支援で新しく楽団員が入って来られることが少し話題になって、山形のほうはバスを購入されたと。バスの購入に対してクラブが支援したという話が出てきまして、その際に山形以外は、金沢もそうだと思いますが、ほぼ楽団員は現地集合、現地解散で個人で行動していると。山形はそういう楽団員の移動に関してはバスが必要な状況で、そのバスが何万キロでしたか？（200万キロ）すごい、もう走っているのが不思議なぐらい走っていると。それを購入するのにクラウドファンディングという話がありました。

これは、ちょっと話が長くなるのでやめますが、そのときに楽団員同士の交流なんてほとんどないというクラブが大成だったでしょうか。我が金沢は、いや、そうでもなくて結構、楽団員同士の飲みグループがあったり、わりかし交流がありますよと言ったら、山形もそうですねということで、札幌、仙台、名古屋あたりは、ほとんどそういうものがないと、それは街の違いかなど。山形、金沢あたりの都市のスケールと札幌、仙台の都市のスケールで、楽団員同士の関係が随分違うのだなということが、まとめるとしたらほとんど意味がないのですけれども、ちょっと印象に残りました。以上です、ありがとうございました。（拍手）

○司会（定政みち子札幌くらぶ事務局次長）      ありがとうございました。

六つのグループからいろいろ興味深いお話が聞けたと思います。

今日の話し合いが、これからの皆さんの活動に生かされますことを願っております。

分科会は、これで終了いたします。

皆様の御協力で時間どおり進んでおります、ありがとうございました。

これで、総会のプログラムをすべて終了いたします。

これをもちまして、第12回JOF C総会札幌総会を閉会いたします。

皆様、御協力ありがとうございました。（拍手）

### 閉会宣言とご案内

○司会（定政みち子札幌くらぶ事務局次長）      この後、会場を移しまして全国交流会をいたします。

同じ2階のポプラの間に移動願います。

交流会のテーブル名は、皆様の名札に書いてありますので、後確認ください。

それでは、移動をよろしく願いいたします。